第44号
2019/01

PVかながわ ニュースレター

Colum

2019年11月　FIT卒業後の家庭用太陽光発 ～我が家の対応計画を考える～

家庭用電力小売り自由化後、FIT卒後の対応は――

いよいよ、2019/11月以降は、これまでの買取額48円/kWhが相対契約による自由化時代に入ります。完全分社化による本格的な配送電分離は2020年度であり、体制は未定です。今後の新電力メニューの情報などを収集しながら、現在の発電や電力利用状況を的確に把握し、自家消費を増やす仕組みや工夫について考えてみたいと思います。

自家消費優先システム改良へ向けて――

第一歩として、「近隣単位発電量比較」による運用・メンテ(O&M)のオーナーの努め(第24号参照)に加え、東電の「電気ご使用のお知らせ」を調査・分析し、発電状況差異や省エネ・節エネを理解するデータを得ています。（不明な方は、これから作成してみてください。）

太陽光発電から直接DCによる蓄電充電の考察――

太陽光発電は、日々の天候依存性が大きいので蓄電池は必須で、効率の良いリチウム蓄電池への直接DC充電が望ましいですが、ハイブリッド型パワコンディショナーを含めると200万円程度と高価な状況です。EV自動車の蓄電池の兼用もあるようですが、蓄電池の取扱い基礎知識にも不安があり、ノウハウや実用的な価格になるまでは、残念ながら静観します。

各使用電気機器の運用を見直す――

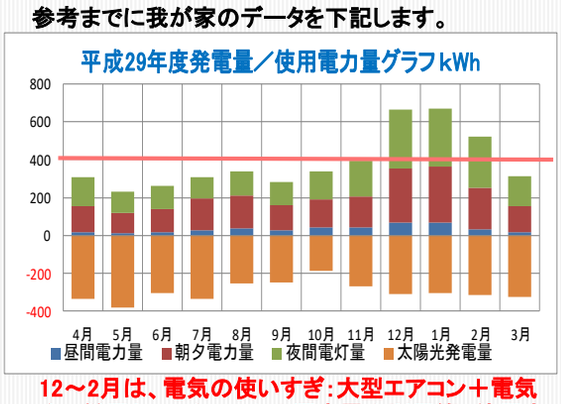
熱エネルギー変換効率の良いエコキュートは、周囲温度の低い深夜より昼間に動作させると保温時間も短くなり、効率アップが期待できますので昼間動作への変更は試行したいですね。

最近のPV-Net本部の取組――

PV健康診断のリニューアルや、PVグリーン証書では十分な評価や活用が難しかった面があった自家消費のCO2削減価値創出をブロックチェーン技術を用いた事業の実証にも取組んでいるようでテスト結果待ちです。認定NPO法人を取得し、寄付金控除が受けられるとのことで、新事業を含めた支援を考えてみるのも良いかもしれません。http://www.greenenergy.jp/3338

いづれにしても発電量・使用量の見える化は必要――

参考までに我が家のデータを下記します。



12～2月は、電気の使いすぎ：大型エアコン＋電気コタツ併用とエコキュートの深夜電力利用等、使用方法を再考する必要がありそうです。

上記年度の売電量が2164kWhでFIT後の単価10円と仮定すると、年額の1/4程度の5000円強くらいは新事業に向けて寄付出来るかもしれません。

電力消費の分析を行いながら、新事業の成功を期待しています。（岡野　記）

世話人から

連絡事項

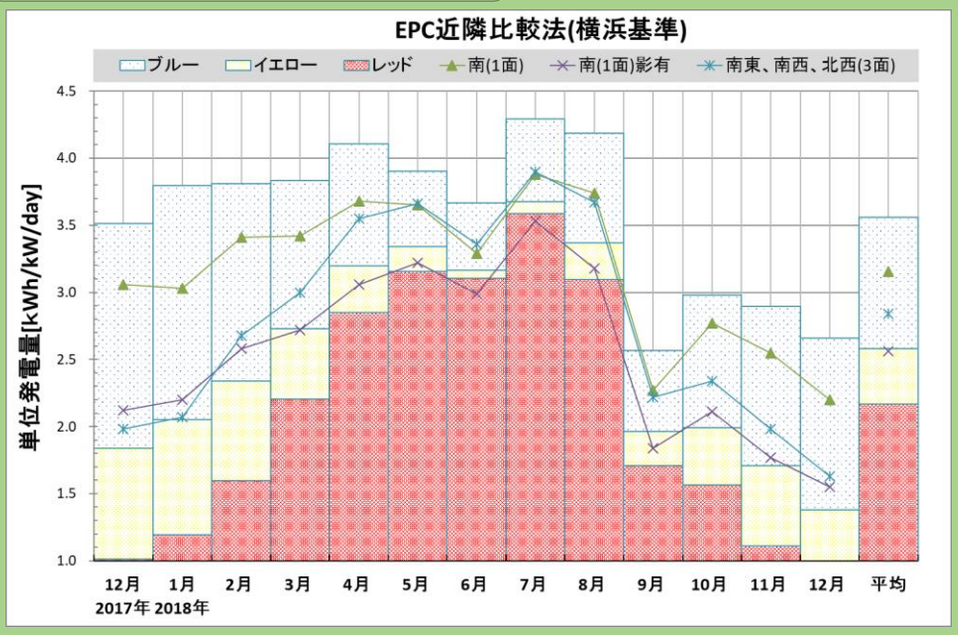
いよいよ、2019年となりました。もう間もなく、フォーラムかながわ2019の案内を連絡いたします。みなさまお誘い合わせの上、是非ご来場ください。

今後の予定

2019年2月16日（土）
「フォーラムかながわ2019
～再生可能エネルギー
・新たな時代のはじまり～」
場所：横浜開港記念会館
時間：13:00受付開始
　　13:30～16:30
資料代：800円
※終了後懇親会を予定

2019年3月31日（日）（予定）
ワークショップ第26回
「出前発電所をくろう！」
会場：「かるがも」（星川駅）
時間：13:40～16:30

今月の単位発電量！



12月の横浜の日照時間は、過去20年間で最低でした。気象庁によると12月は「寒気の南下が弱く暖かい空気に覆われる日が多く、4 日は日本海の低気圧に向かって南から暖かい空気が流れ込んで全国的に季節外れの暖かさになり、全国の352 地点で 12 月として最も高い気温を観測したほか、沖縄・奄美や西日本 を中心に 66 地点で夏日になった。 天気は、全国的に概ね数日の周期で変化し、高気圧と低気圧が次々に通過したが、 東日本太平洋側と西日本は高気圧に覆われることは少なかった。冬型の気圧配置になることも少なく、晴れた日が 12 月としては顕著に少なかったため、東日本太平洋側と西日本は日照時間がかなり少なかった。また、北日本日本海側も気圧の谷の影響を受けることが多く、日照時間がかなり少なかった。」

単位発電量とは、1kWあたり、1日あたりの平均発電量です。毎月の発電量[kWh]を設備容量[kW]と日数で割ってください。平均は直近12か月の単位発電量です。一般的に単位発電量は、ブルーの範囲になることが期待されます。北西など、やや北向きがある発電所はイエローになることもありますが、レッドになる場合は、メーカなどに相談することをお勧めします。